

平成29年 9月発行 第35号
発行元：福生市立中央図書館

福生市熊川 850-1
TEL：042-553-3111
http://www.lib.fussa.tokyo.jp/

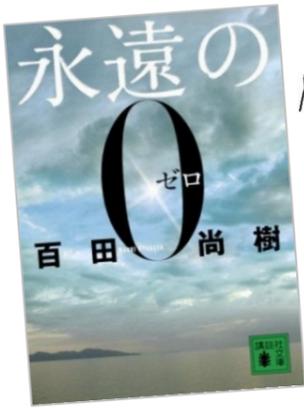
オススメ本 紹介コーナー!

永遠の0

百田尚樹／著
講談社 講談社文庫（二〇〇九年）

映画化もされた、人気のある作品。

物語は、主人公が姉から「あの仕事」を紹介されるところから始まる。その仕事とは、六〇年前、特攻で亡くなった祖父、官部久蔵について調べる事。彼の戦友を訪ね、話を聞くことにより、少しずつ明らかになっていく、彼の人物像は「臆病者だが、凄腕のパイロット」というものだった。「生きて帰りたい。」と言いつつ続けた彼はなぜ特攻に行かなければならなかったのか。夏に読んでほしい一冊。



NAO!!

白球ガールズ

赤澤竜也／著
KADOKAWA（二〇一五年）



「二〇一六年福生版 中高生向け推選図書」に選ばれた一冊です。

女の子は甲子園に出ることができない。学童軟式、中学軟式、大学、社会人、プロ、この五つは性別を問わない。主人公の青山由佳の祖父は元甲子園球児であり、子どものとき「由佳は絶対に甲子園に行ける」と言われ、野球を始める。女子高生の青春物語となっている。野球に興味がない人でもぜひ手に取ってみてください。

Yuta

新・オタク経済 3兆円市場の地殻大変動

原田曜平／著
朝日新聞出版 朝日新書（二〇一五年）

最近のオタクの特徴は、「モノを「買わない」、コミケに「行かない」、特定ジャンルに「ハマらない」、マイルド志向オタクが増えていきます。

しかし、アニメ、ゲーム、ラブほかオタク市場はここ数年右肩上がりなような。いったいそれは何故なのでしょう？

「隠れオタク」「リア充オタク」など細分化し、薄く拡散するオタクの全貌を今、解き明かす――！！

さらに、いろいろなジャンルのオタクを分かりやすくイラストで解説されています。「私はオタクです！」と名乗る人は、是非読んでみてください。



★

空飛ぶ広報室

有川浩／著
幻冬舎（二〇一二年）



交通事故に遭い、パイロット資格剥奪（P免）となってしまう。航空自衛隊の戦闘機パイロット、空井。彼が転勤した、航空自衛隊航空幕僚監部広報室での物語。

笑えるところあり、泣けるところありで楽しめます。また、自衛隊についても詳しく知ることができるので、少しでも興味を持たれた方は、是非読んでみてください！

NAO!!

生存者ゼロ

安生正／著
宝島社（二〇一三年）



北海道沖にある石油プラットフォーム「TR 102」との連絡が突如途絶えた。

出動を要請された自衛隊員の主人公たちがそこで目にしたのはプラットフォーム内の驚くべき惨状だった。

何が彼らを襲ったのか。未知の「感染症」との戦い、その結末とは。

NAO!!

分福茶釜

細野晴臣／著
鈴木惣一朗／聞き手
平凡社（二〇〇八年）



坂本龍一、高橋幸宏、細野晴臣、ご存じでしょうか？

その世代の方ならきつとご存じであろう、Yellow Magic Orchestraのメンバーです。

今やもう三人ともお爺さんですが、その波乱万丈な生き方は誰もが気になると思います。この本は細野晴臣氏と鈴木惣一朗氏の対談本です。

細野晴臣氏の穏やかな声を知ったうえで読むと心の内で語ってくれます。

音楽的な側面も多いですが注釈も多く、それ以上に人生の生き方、世間との関係、個人としての考え方など、人としての考え方がたくさん詰まっています。

いまを生きる僕たちは極力老いたくないと考えがちですが、細野晴臣がYMOであった由縁や細野晴臣という在り方から、老いるのも悪くないと考えさせてくれます。

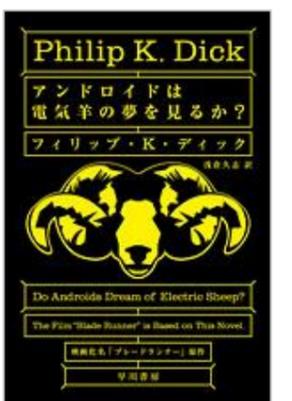
安心して先が見通せるような灯台のような本です。対談というものはその人自身が色濃く出るのでどの文面でも面白いので、これを機に各種読んでみてはいかがでしょう。

とくにこの本は励まされて元気にしてくれることでしょう。

↑

アンドロイドは電気羊の夢を見るか？

フィリップ・K・ディック／著
浅倉久志／訳
早川書房
ハヤカワ文庫SF（一九九六年）



この作品は映画「ブレードランナー」の原作です。十月末に新作も公開されます。

舞台は二〇二一年と近いですがそれもまた六〇年代SFの醍醐味かと思えます。出だしからオルガンで感情を管理するなどSFらしさの滲み出る作品です。核戦争後の荒廃した地球で慎重に電気羊を飼う主人公リック・デッカーはアンドロイド専門の賞金稼ぎ。高価な生き動物を飼うべく火星からやってきた六人のアンドロイドを追う話です。SFだから堅苦しい、古典だから難しいということはなく、丁寧に読めばフィリップ・K・ディックのユーモアが存分に含まれていて分かりやすいです。

設定された年代に近づきつつある現代でも、ストーリーに浸れるのは作者の世界観があつてのことだと思えます。アンドロイドの物語でありながら人の生活やあり方を考えさせられる作品です。AIや人工知能が身近になってきたこの頃だからこそ、読んでほしいと思います。

↑